

1999.12.28

## 氷ノ山ワカン登山



### メンバー

大塚賢一 44才 L  
木倉 博 38才

天候・・・快晴

気温・・・-5 ~ -2度



氷ノ山の夜明け

7:20 665 m -6度 快晴  
スノーシュー装着 氷ノ山  
越え小屋スタート。

昨日に降った新雪のためにスノーシューを装着しなければ壺足では股下

まですっぽりと埋まってしまうほどである。トレースはうっすらとあるものの無きに等しい。この氷ノ山越えからのルートはこの3月にアキラと来たときに1200付近で道を迷ってとんでもない谷に降りてしまったので今日は十分に気合いを入れて慎重である。今回はビデオカメラ、一眼レフ、テープレコーダーを持参なので非常に大忙しの登山である。

8:50 975 m -2度 地藏蔵到着。

このルートはほとんど直登に近いので、また新雪の

### 「未トレース

思うに進まず  
汗凍る」

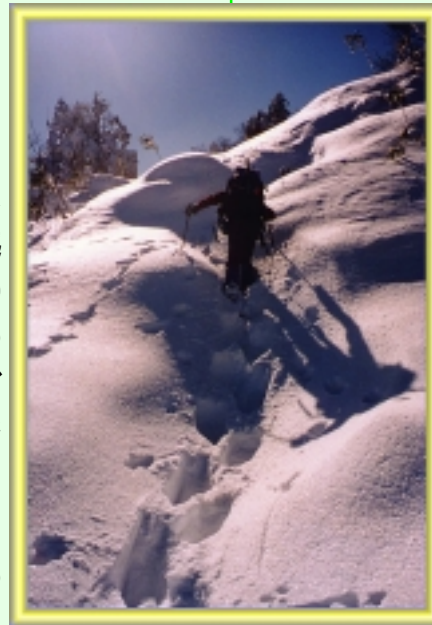
深雪なので相当に体力を消耗する。

山頂付近が小さく見えるが、ものすごい霧氷になっているようである、早くたどり着きたい気持ちが焦る。しかし、焦りは禁物である、そこに目標物が見えていてもたどり着けないのが雪山なのだから・・・。

10:02 1265m -2度 氷ノ山越え小屋到着 小休止。

この大雪の中を3時間足らずでここまでルートも間違わずにきたのは上々であろう。

いきなりものすごい爆音とともに2機の米軍の戦闘機が低空飛行で通り過ぎる、ものすごい早さである。私はこの手の戦闘機に今まで3回遭遇している。一つはやはりこの氷ノ山である、二つ目は中央アルプスである。日





甌岩がひととき美しい

本の狭い山並みでシュミレートしているのいであろうが、我々にとってはえらい迷惑きわまるものである。

時間もまだたっぷりとあるので、山頂まで約1時間ラッセルすることにするが、ここからはNoト

から、すごいものだと自分でも感心する。しかし、もう2~3度寒波がやって来てもっとブッシュが埋まらなければとてもじゃないがスキーはまだ出来な状態である。

13:30

下山コースを流れ



もうすぐそこに山頂屋が・・・

レースなのでスノーシューを履いていても膝までのラッセルである。キクちゃんのはワカンなので私のスノーシューの後でもう10Cmは沈んで悪銭苦闘である。

12:36 1510m -2度 **山頂小屋到着** 昼食タイム。

ふつうなら約1時間で来れるところを2時間30分もかかってもがいていた、それだけに中身の濃いものである。この稜線から眺める北壁付近の景色は誰もが喜びの奇声を上げると言うほどに素晴らしい大自然が作り出した造形美である。

最大の山場は甌岩を回り込む斜度40度以上の北の壁のトラバースである。

ストックを駆使して慎重に一步一步確実にトレースを刻んで行く、しかしここでもビデオを回し、シャッターを切りと何かと忙しい。

この斜面を3月には山スキーで滑り込んで来るのだ



最大の難関>北壁トラバース

尾根方面にとったが、まだまだ下れる状態ではなくともないブッシュまみれで、それこそ雪だるまになって遭難しかねないと思い、来たトレースを引き返すピストンにする。

14:16 1260m **氷ノ山越え小屋到着**。

やはりトレースを刻んであるルートは非常に快適である。また下りなのでどんどん進んで行けるのである。途中で私のスノーシューが壊れてしまい細引き、ナイフ、ライターなどで応急処置を施しなら問題なく下れた。

14:45 **地藏蔵到着**。

15:15 **下山**。

23日に引き続き最高の氷ノ山登山を満喫出来て感無量であった。

「・・・氷ノ山に感謝・・・」